



平成 28 年 1 月 28 日

各 位

上場会社名 五洋建設株式会社
代表者名 代表取締役社長 清水 琢三
コード番号 1893
上場取引所 東証・名証各一部
問い合わせ先 取締役兼執行役員経営管理本部副本部長
兼経営企画部長 稲富 路生
(TEL. 03-3817-7545)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、下記の通り、平成 28 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間において、造船事業ならびに事業用不動産の減損損失等を特別損失に計上する見通しとなりました。また、当該特別損失の計上や最近の業績動向などを踏まえ、平成 27 年 5 月 13 日に公表した平成 28 年 3 月期(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

当社連結子会社で造船事業を主業とする警固屋船渠株式会社(以下、警固屋船渠)においては、厳しい事業環境の下、業績の低迷が続いており、このたび減損損失等 26 億円を特別損失に計上することになりました。損失の内容としては、当社が保有し警固屋船渠に賃貸している土地や同社が所有する建物などの事業用不動産の減損損失 22 億円、及び警固屋船渠の子会社であるKD SHIPPING社が保有する船舶の売却損失 4 億円などです。

警固屋船渠においては、業務効率化・コストダウン等による競争力強化、ならびに五洋建設グループ一体となった営業強化などの経営再建策を推進し、早期の業績回復を図ります。

また、当社は、低稼働不動産については、売却による企業体質のスリム化を進めています。資材置き場として利用している事業用不動産(千葉県)の売却の見通しが立ったため、これに伴う減損損失 20 億円を特別損失に計上いたします。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって記載の見通しとは異なる可能性があります。

2. 平成 28 年 3 月期業績予想の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

○連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	467,000	14,500	13,500	6,500	22 円 73 銭
今回修正予想 (B)	490,000	19,300	18,300	7,500	26 円 23 銭
増 減 額 (B-A)	23,000	4,800	4,800	1,000	
増 減 率 (%)	4.9%	33.1%	35.6%	15.4%	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	426,237	12,293	11,393	6,183	21 円 63 銭

○個別業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	435,000	13,500	12,500	6,000	20 円 99 銭
今回修正予想 (B)	455,000	17,000	17,000	6,500	22 円 73 銭
増 減 額 (B-A)	20,000	3,500	4,500	500	
増 減 率 (%)	4.6%	25.9%	36.0%	8.3%	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	393,711	9,693	9,043	4,519	15 円 81 銭

3. 業績予想修正の理由

(1) 個別業績予想

手持工事が順調に進捗したことにより、売上高は前回予想から 200 億円増加する見込みです。売上高の増加に加え、主に国内建築工事の採算が改善したことなどにより、営業利益は 35 億円、海外子会社からの配当金も見込まれるため、経常利益は 45 億円、前回予想よりそれぞれ増加する見込みです。上記 1. に記載の特別損失を計上することなどから、当期純利益は 5 億円増加する見込みです。

(2) 連結業績予想

主に個別業績予想の修正に伴い、売上高は前回予想から 230 億円増加する見込みです。また、営業利益が 48 億円、経常利益は 48 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 10 億円それぞれ増加する見込みです。

以 上

（注）業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって記載の見通しとは異なる可能性があります。